



デラックスドローリー DX-04 取扱説明書



本製品にはボート及び船外機は含まれておりません。

- 本製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
- 本書は、ご使用にあたり、安全に使用して頂くための正しい取付・取扱い方法と簡単な保守・点検の方法を記載しております。ご使用になる前に必ずこの取扱い説明書をよくお読み下さい。

この取扱説明書には、使用に際して、特に重要な案内事項を **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** マークを使用して表現しております。

これらの3種類のマークにより表現された内容は、以下のような意味を持ちますので特に注意して下さい。

⚠危険 死亡または重傷につながる、差し迫った重大な事故を未然に防ぐための事項を示しております。

⚠警告 死亡または重傷につながる可能性がある事故を未然に防ぐための事項を示しております。

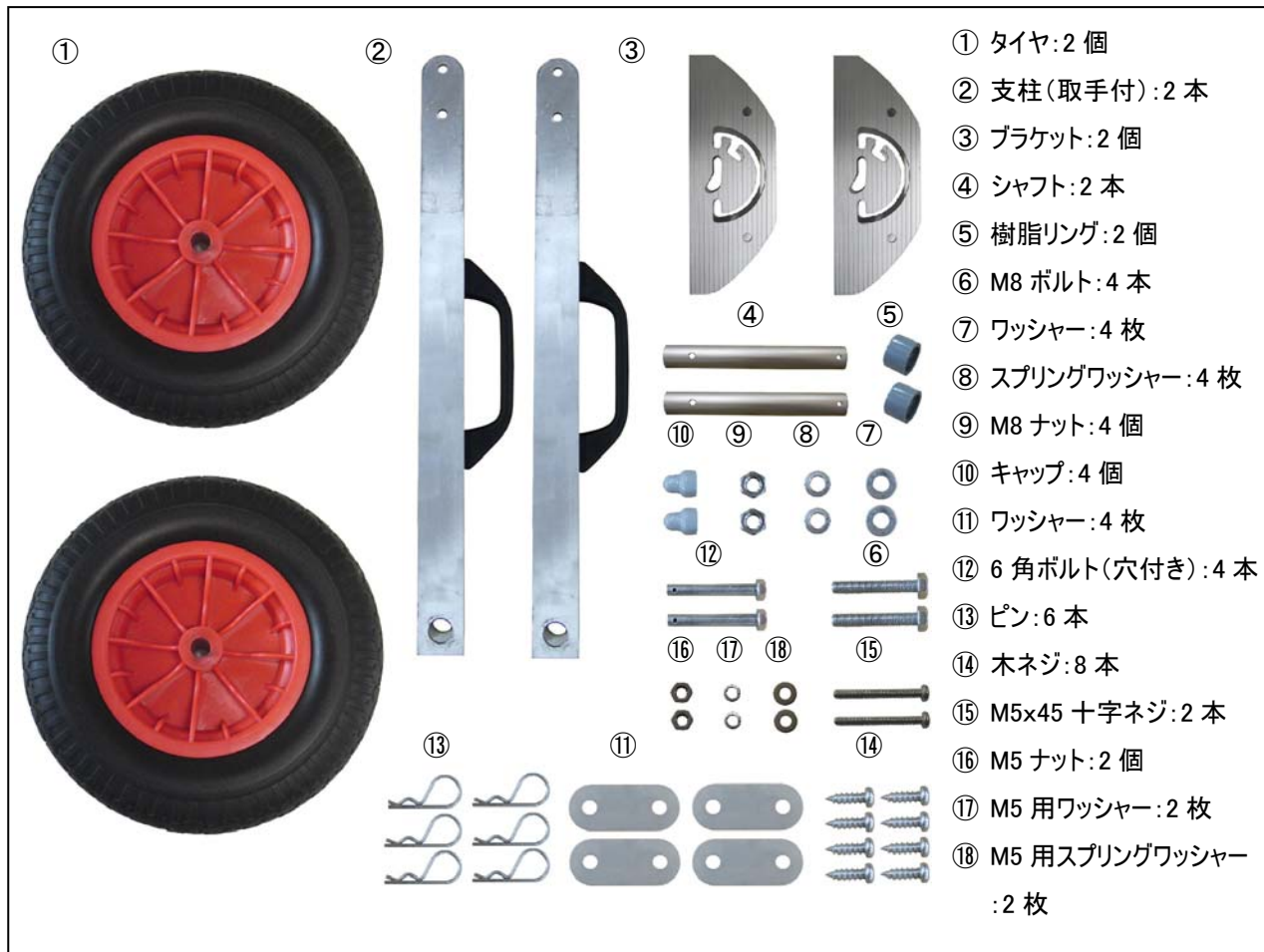
⚠注意 軽傷または製品や物品の損傷につながる可能性がある事故を未然に防ぐための事項を示しております。



本製品は、全長 4.00 m 以上のボート及び 重量(船外機= 75kg 、燃料・備品= 30kg) 以上では絶対に使用しないで下さい。

[パッケージの内容]

下記の部品が入っておりますので、ご使用前に必ず確認して下さい。



[取付けに必要なボート及び取付けが出来ない艇]

- トランサム板の形状が上から見て湾曲している場合。
- トランサム板の強度が弱い及び薄い場合(当て板を入れて補強することにより取付け可能な場合があります)
- トランサム板の内側(取付け部内側)に手が入らない場合(ナットを締められない場合)
- トランサム板の幅が狭く、本体が船外機と干渉する場合。

[取付けに必要な工具]

- プラスドライバー
- スパナもしくはレンチ(8mm & 13mm)
- ドリルφ3mm(ボートによってはφ8mm も必要となる場合があります)
- シーリング材(小さいチューブで可)

[タイヤと支柱の組立て方法]

下記のようにタイヤと支柱の組立てを行います。

- 1) 下図に記載のものを準備します。



- 2) 支柱にシャフト(φ5mmの穴側)を通して、M5×45 十字ネジ、M5 ナット、M5 用スプリングワッシャー、M5 用ワッシャーを使用してシャフトを固定します。ナットはキチンと締めて下さい。

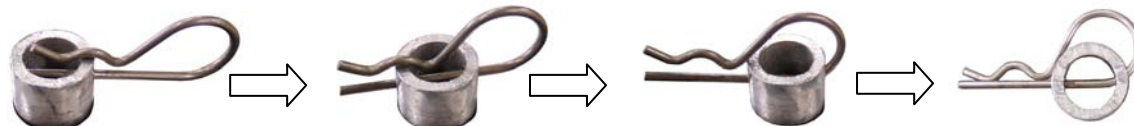


注意 タイヤと支柱を組み立てる場合、左右の方向性があります。
左右が対称となるように組立てを行って下さい。

- 3) 支柱に樹脂リングとタイヤを通し、ピンで固定します。



ピンの固定方法: シャフトの両端に空いている穴の片側にピンを下図のように通し、最後にピンを倒します。



注意 シャフトにピンを通すとき、手を傷つけないように注意して作業して下さい。

注意 タイヤのバルブには、必ずキャップを取り付けて下さい。

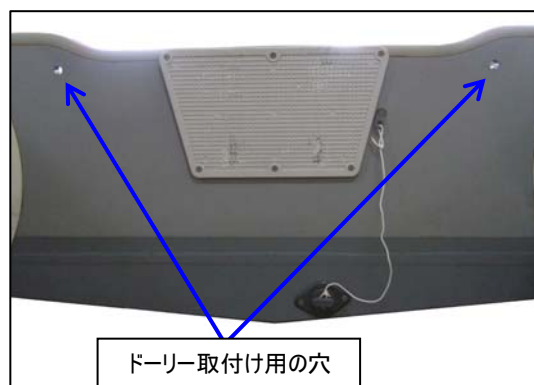
- 4) 同様に、もう一方のタイヤと支柱を組み立てます。

[ブラケットの取付け方法]

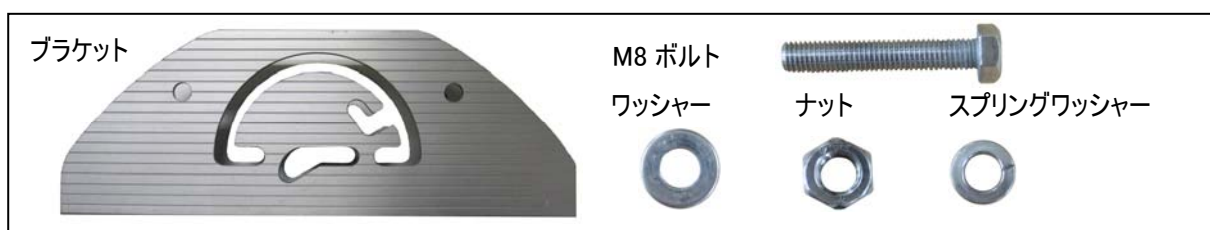
平らな場所に、ボート本体を広げ、エアを充気します。

この時、ボートを地面と水平にするため、底板、エアフロアーの組立ては行わず、エアキールにもエアを充気しないで下さい。

- 1) インフレータブルボートのトランサム板には、デラックスドローリーを取付ける為の穴が、あらかじめあけられています。
(空けられている穴を利用して取付けが出来ない場合もあります。また一部のボートのトランサム板には、穴が開いていない場合があります。そのような場合は、 $\phi 8\text{mm}$ の穴をあけて下さい。)



- 2) ブラケット・M8 ボルト・ワッシャー・スプリングワッシャー・ナットを準備します。



- 3) トランサム板の外側に、ブラケットを仮止めします。



- 4) 仮止めをした後、ブラケットが地面に対して垂直になるように調整します。

垂直になっていないと、本製品を使用する時、タイヤが不安定な状態となり、無理な力が加わり、ボート本体及びデラックスドローリーを破損する恐れがあります。

直角定規又は、垂直にカットしたダンボール等を使用すると、垂直の調整が容易にできます。



- 5) 組み立てた支柱(タイヤ付き)を仮止めしたブラケットに取付け、支柱を上下に動かし、タイヤがチューブに干渉しないか確認を行います。

干渉するようであれば、ブラケットを干渉しない位置にずらして下さい。その場合、別途ドローリー取付け用の穴($\phi 8\text{mm}$)をあけてください。

ブラケットへの取付けは、「使用方法」の支柱(タイヤ)をブラケッ



トに取付ける方法を参照下さい。

- 6) 支柱が干渉しないことを確認したら、支柱を取り外します。

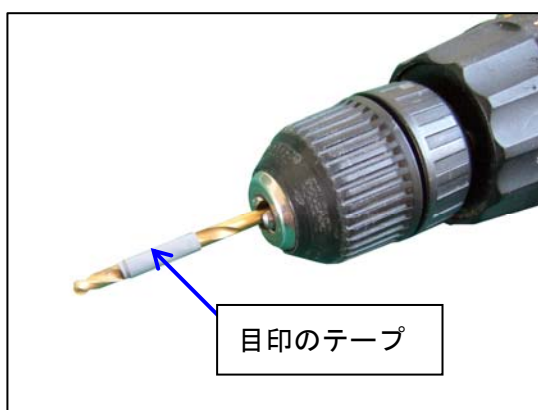
ブラケットが地面に対して垂直になっているのを確認し、問題なければ、ブラケットの木ネジ取付け部分 4 箇所をマーキングします。



- 7) マーキングが終了しましたらブラケットをトランサム板から取り外します。

マーキングした部分を、 $\phi 3\text{mm}$ のドリルにて下穴(深さ 10mm)をあけます。

下穴をあける時は、ドリルの刃とトランサム板が垂直になるように穴をあけて下さい。



注意

下穴をあける場合は、ドリルがトランサム板を貫通しないように気をつけて下さい。

ドリルの先端に、下穴の深さがわかるように目印のテープを貼っておくとよいでしょう。

- 8) M8 ボルト、ワッシャー、スプリングワッシャー、M8 ナットを使用してブラケットを仮締めします。次に、下穴をあけた部分にシーリング材を塗布し、プラスドライバーを使用して木ネジ(4 箇所)を取付けます。

最後に M8 ボルトとナットを締め増します。



- 9) ボルト&ナットの先端にキャップを取付けます。
これでブラケットの取付けは終了です。



警告

必ず、木ネジ部分にシーリング材を塗布して下さい。塗布をしないと、木ネジの隙間より、トランスラム板の内部に水が浸入し、木部が腐る恐れがあります。



注意

- ・木ネジの山に合ったプラスドライバーを使用して下さい。
ネジ山に合っていないドライバーを使用すると、ネジ山が削れることがあります。
- ・ブラケット取付け部のネジ類は定期的に締め増しを行って下さい。

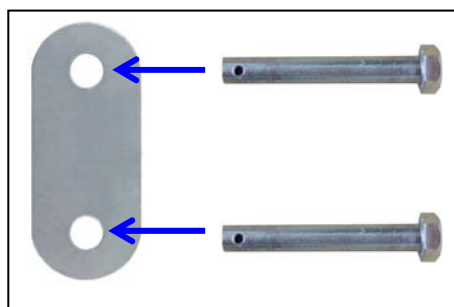
[使用方法]

○支柱(タイヤ)をブラケットに取付ける方法

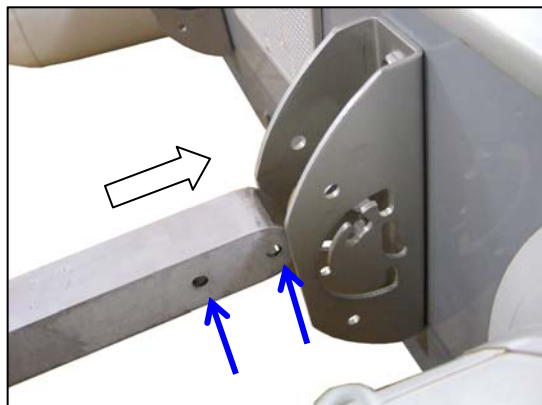
組み立てた支柱、ワッシャー、六角ボルト(穴付き)、ピンを準備します。



1. ワッシャーの穴に六角ボルト(穴付き)を通します。



2. ブラケットの切り込みと支柱の穴が合うように、ブラケットに支柱を差し込みます。



3. ワッシャーに六角ボルト(穴付き)を通してものをブラケットの外側から差し込みます。



4. ブラケット内側からワッシャーを差込みます。



5. 六角ボルト(穴付き)の穴にピンを通して固定します。



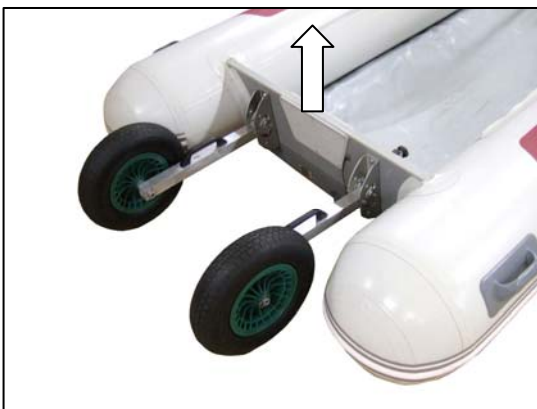
6. 取り付け完了



○ 船外機を取付けられる状態にする。(支柱を下に降ろす)

トランサム板中央(もしくは、トランサム両サイドのチューブ)を上を持ち上げます。

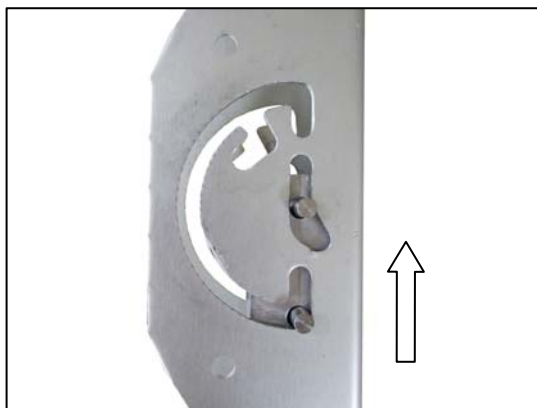
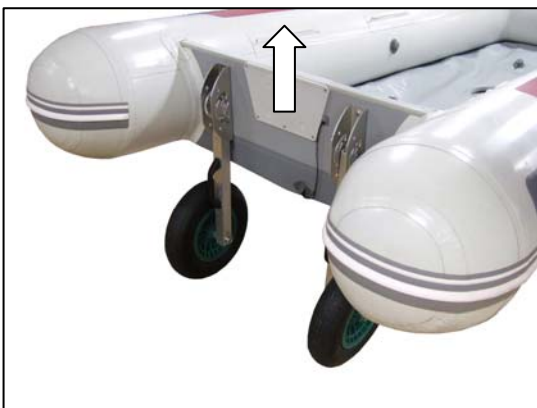
1)



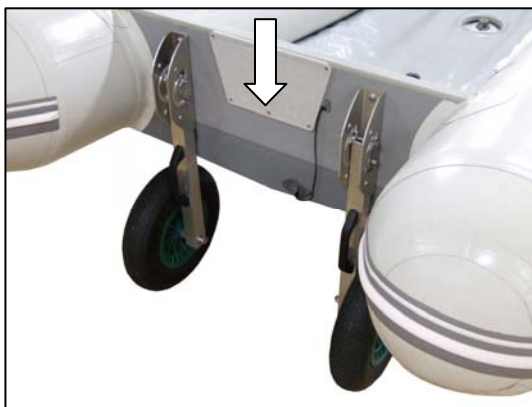
2)



3)



- 4) 3)の状態まで持ち上げたら、ゆっくりと下に降ろします。
この時、下側の6角ボルトが必ず溝にかかるようにして下さい。



- 5) この状態になりましたら船外機を取付け、ボートを動かすことができます。



⚠ 危険

- ・ボートに人を載せた状態での移動は、絶対にしないで下さい。
- ・自動車等の乗り物でボートを引っ張らないで下さい。
- ・歩くスピードよりも速く、ボートを動かさないで下さい。

⚠ 注意

地面が平らでない場所で使用すると、段差等にタイヤが引っ掛かり、ブラケットから支柱が外れてしまうことがあります。ボート本体・船外機・本製品を破損する恐れがあるため、段差を乗り越える際は、充分注意して下さい。

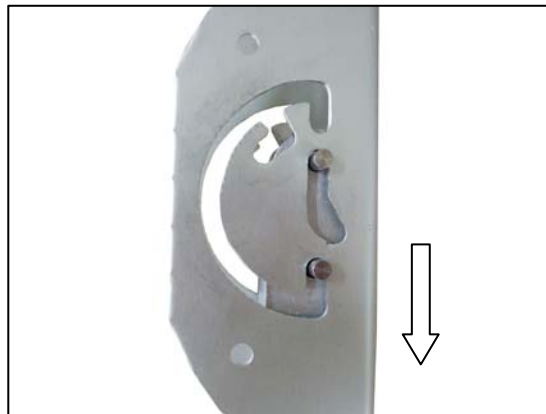
○ 支柱(タイヤ)の跳ね上げ方法

本製品は、支柱(タイヤ)を真上と斜めの2段階の状態に固定できるようになっております。

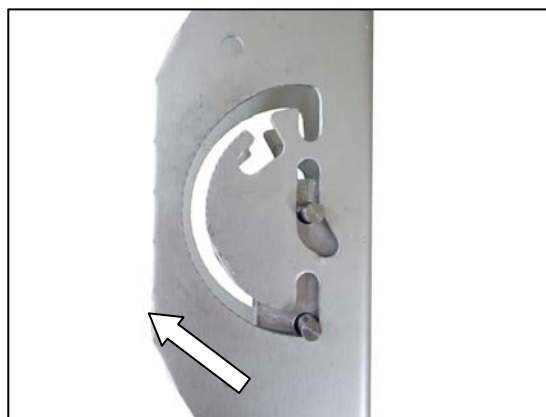
下記要領にて支柱(タイヤ)の跳ね上げを行って下さい。

○支柱を上位置まで跳ね上げる

- 1) 取手をつかみます。



- 2) つかんだ取手(支柱)を下側にスライドさせます。



警告

取手をつかむ際、ボートから身を大きく乗り出すことはやめて下さい。ボートがバランスを崩し、船が横転し落水する恐れがあります。



危険

船外機の始動中は、支柱の上げ下げは絶対に行わないで下さい。

- 3) 水圧によりタイヤが水面に浮き上がります。





警告

タイヤが水面に浮き上がる時、水圧によりタイヤが勢いよく浮き上がります。この時、本製品に手をぶつけたり、挟まないように十分気をつけて下さい。

- 4) 取手をつかみながら支柱を上位置まで回転させます。



- 5) 6 角ボルトをブラケット上段の溝にかけて固定します。



- 6) 完了



○支柱を斜めの位置まで跳ね上げる

支柱を上位置まで跳ね上げる場合の 1)～3)と同様にタイヤを水面に浮き上がらせます。



注意 支柱を斜めの位置にセットして使用するのは、2馬力船外機等の後進ギアを持たない船外機で、ヘッドを回転させて後進を行う場合のみとし、通常は支柱を真上の位置にセットして使用して下さい。

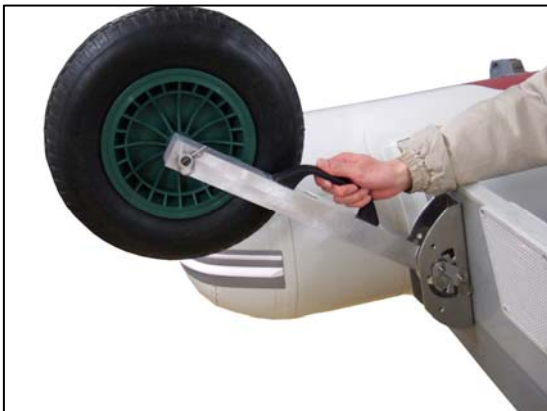


警告 タイヤが水面に浮き上がる時、水圧によりタイヤが勢いよく浮き上がります。この時、本製品に手をぶつけたり、挟まないように充分気をつけて下さい。

- 1) 取手をつかみながら支柱を斜めの固定位置まで回転させます。



- 2) 6 角ボルトをブラケットの斜め固定するための溝にかけて固定します。



- 3) 完了



○支柱を下に降ろす

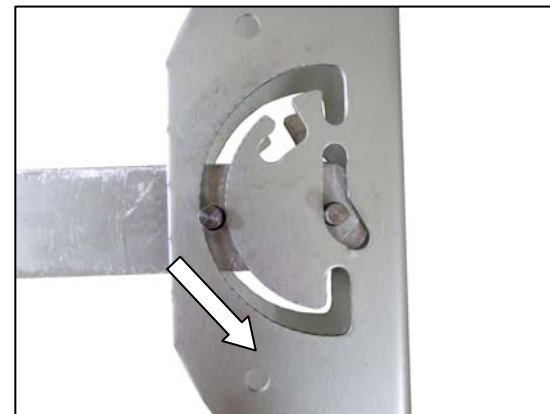
- 1) 取手をつかみます



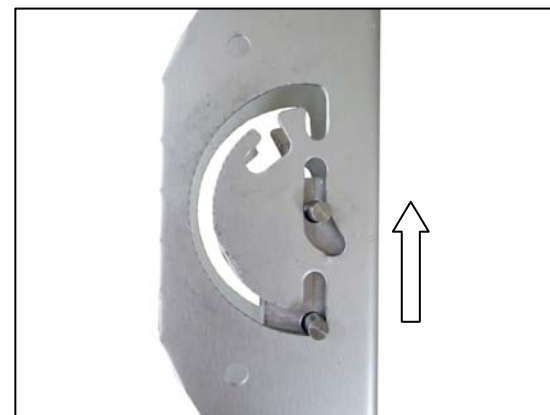
- 2) 支柱を上の方まで持ち上げます。



- 3) 支柱を回転させて水中に入れます。



- 4)



5) 6 角ボルトをブラケット下段の溝にかけて固定します。



危険 タイヤを水面に入れた状態(支柱を下に下げた状態)で、ボートを走行させないで下さい。タイヤが抵抗となり、ボートの性能が著しく低下し危険です。

[使用上の注意事項]

- 本製品は、全長 4.00 m 以上のボート及び 重量(船外機= 75kg 、燃料・備品= 30kg) 以上では絶対に使用しないで下さい。
- 人間を載せた状態での使用は絶対に行わないで下さい。
- 自動車等の乗り物でボートを引っ張らないで下さい。
- 歩くスピードよりも速く、ボートを動かさないで下さい。
- 船外機の始動中は、本体の支柱の上げ下げは絶対に行わないで下さい。
- タイヤを水面に入れた状態(支柱を下に下げた状態)で、ボートを走行させないで下さい。タイヤが抵抗となり、ボートの性能が著しく低下し危険です。
- 取手をつかむ際、ボートから身を大きく乗り出すことはやめて下さい。ボートがバランスを崩し、船が横転する恐れがあります。
- 本製品は、ノーパンクタイヤを採用しています。ノーパンクタイヤはゴムスポンジで出来ており、その性質上、タイヤの上に物を置いたりしますと、跡が付いたり、変形することがあります。
その場合、お湯につけたり、太陽光に当てて頂くことにより変形が戻ります。
- タイヤが水面に浮き上がる時、水圧によりタイヤが勢いよく浮き上がります。この時、本製品に手をぶつけたり、挟まないように充分気をつけて下さい。

[メンテナンス]

使用後は、必ず、真水で本体を洗って下さい。また、車輪及び軸に付着した砂を取除いて下さい。

あなたの身近にいつも…

Achilles
アキレス株式会社

本 社 / 〒160-8885	東京都新宿区大京町 22-5	TEL: 03-3225-2186	FAX: 03-3351-6963
関西 支社 / 〒530-0005	大阪市北区中之島 2-2-7	TEL: 06-4707-2315	FAX: 06-4707-2305
	中之島セントラルタワー 23 階		
北海道営業所 / 〒061-3241	石狩市新港西 1-726-3	TEL: 0133-73-9591	FAX: 0133-73-9590
九州 営業所 / 〒813-6591	福岡市東区多の津 1-1-4	TEL: 092-622-2870	FAX: 092-622-2590